

日本音楽教育メディア学会

(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)

# JMSME News Letter

2016.1 vol.03 <新春号>

発行：平成 28 年 1 月 20 日

日本音楽教育メディア学会事務局

〒284-8567 千葉県佐倉市山王 1-9

千葉敬愛短期大学谷中研究室

jmsme2014@yahoo.co.jp

(HP) <http://jmsme.jp/>

## ♪ 謹賀新年 ♪

会長 谷中優

新春を迎え、本会も設立から3年目となりました。昨年は「音楽教育メディア研究」の創刊やHP開設があり、加えて第1回研究会(千葉県松戸市2月)、第2回研究会(東京都葛飾区8月)の開催は、両会とも内容の濃いものでありました。第2回では非会員の方々の参加もあり、新会員が徐々に増加の傾向にあります。これらはひとえに会員の皆様のご協力の賜物と感謝しております。

さて2015年は多くの出来事がありました。子どもや高齢者・弱者への虐待や凶悪事件の低年齢化と多発、いまだ解決されないいじめ問題、遅々とした3.11の復興作業、多くの災害、原発や沖縄の基地問題に加え、政府は自衛隊の他国軍への後方支援の新法(恒久法)の検討段階に入っています。国際的にはISによるテロの多発等枚挙にいとまがありません。

決して楽観できないそのような状況の中で、次代を担う子どもたちを育む教育は益々重要であると考えます。教育を担う人材の育成も含め、本学会が果たす音楽を切り口とした、あるいは音楽の関わる教育の可能性は大なるものと確信します。

最後に皆様のご健康と学会の発展を祈念致しまして、新年のご挨拶と致します。



## COLUMN

### 「良い授業について考える」(第二回)

副会長 田村幸雄

すなわち教師から見て良い授業とは、授業技術(テクニック)が磨かれていると思えるような授業といえます。このような教師から見て良い授業は、すぐには実現できないものですが、ある程度経験とスキルを積むことで可能となります。

子どもから見て良い授業とは、授業内容が分かり自分の居場所があると感じられる授業といえるでしょう。このような授業では、学ぶ意欲も高まり学習目標に到達することも可能となってきます。しかし、全ての子どもに対してこのような授業は可能なのでしょうか。

全ての子どもが「分かる」と感じる授業は不可能と思われがちですが、「分かる=分からない」と教師が見る目を変えることで可能になります。すなわち、教師自身が授業で「分からない」ことは当たり前のことであり、「分かる」ために勉強しているのだということを認めることなのです。

子ども達は、「分からない」ことを認められることで、「分からない」を自らの力で発信していくことが可能となり、それが「分かる」ことに繋がっていくと、感じられるようになります。このような授業では、全ての子どもが、学習内容が分かり自分の居場所があると感じられるようになると思います。

このような授業は、経験やスキルを積んでもできるとは限らないものです。全ての子どもを見つめ、全ての子どもが分かるための授業を常に模索して授業改善に努める必要があると改めて感じています。(終)

(厚木市立藤塚中学校)

## 特別寄稿 小さな出来事

山田衛子

突然、がらっ、と戸が開いた。驚いて目を向けると、Dちゃんがいた。

4年生音楽専科の授業中だ。Dちゃんも授業中のはず。どうやら自由行動にでたらしい。何十年前も前の新米非常勤講師時代、身障児学級のお手伝いをしたことがある。きちんとそのための勉強をした訳ではなかったから、試行錯誤だった。

前日のその授業で、「おはながわらった」を歌った。皆、一辺で好きになった。自分たちがお花になったかのような、明るい空気の中、一緒に歌いこせせずも、とびきり上機嫌だったのが、自閉症児のDちゃんだった。「わらった」のリズムか、跳躍して足踏みするような音の連なりか、それともクライマックスへのメロディーの柔らかな流れか — 何がDちゃんの心と体に響き入ったのだろう。

『音それ自体は音楽ではありません。音楽が人間の心に何かを呼び起こす、それが音楽の始まりです。音自身に価値があるわけでもない。音が人間と関わった時、その瞬間に芸術が生まれるのです。』 新年5日に他界した作曲家、指揮者ピエール・ブーレーズを偲んで再放送されたドキュメンタリー番組で、ピアニストのクリスチャン・ツイマーマンが語った言葉に、にこにこ音楽室の扉に立つDちゃんの姿が重なった。

(音楽教育家・即興演奏家  
ハイデルベルク在住)

## 音楽教育談義 第2回

### 「元気に」歌う子どもと

#### 「高架下」の保育所

副会長・小林田鶴子

幼稚園や保育所では、子どもたちに「元気に歌いましょう」と言うことが多く、「子どもは元気に歌うのが良い」というのが暗黙の了解となっているような気がする。しかし、「元気に」というと声を張り上げて、がなるように歌う子どもたちがいることも事実である。このことに関して若尾裕は著書『親のための新しい音楽の教科書』（サポテン書房、2014）でヨーロッパの子どもたちは静かに歌っていると述べ、日本の独特な状況を指摘している。

一方、最近、「子どもの声の騒音問題」で、住宅街で保育所を設置するのが難しくなっている。首都圏では既に高架下に保育所が開設されていることを知り、驚いてしまった。豊かな感性を育むのに重要な年代の子どもたちが高架下で過ごす。電車の通過ごとに音と振動に晒された子どもはどのような風になるのだろう。

「元気」な声→「騒音」→「高架下」→「がなる声」→「騒音」という悪循環を懸念するのは私だけであろうか…。

(共栄大学教育学部教育学科)

## ♪ 学会トピックス ♪

- 来る2月28日、第3回研究会を開催します。現在発表者募集中です。(詳細は研究会のお知らせ欄、または学会ホームページ参照)
- 同様に3月31日発行の学会誌「音楽教育メディア研究」第2巻に掲載の原稿を募集中です。(詳細は学会ホームページ参照)
- 第2回総会において、本会の会計年度の変更が提案され承認されています。
- 新年度に向け役員改選が予定されています。詳細は後日お知らせ致します。
- 「音楽教育メディア研究」への執筆要項が改訂になっています。ご確認ください。(学会HP)

## 新会員メッセージ

兼古勝史

皆様、今年度新たに日本音楽教育メディア学会に入会させていただきました兼古勝史です。どうぞよろしくお願いたします。

元々高校の音楽教師をしておりましたが「サウンドスケープ」の発想に出会い、音から地域や環境、社会やメディア等を読み解き、表現する面白さに取りつかれ、仕事としては、BSラジオ放送局、CSテレビ委託放送事業者、ケーブルテレビ、インターネット業界等を経て、近年は大学等メディア関係の学科などで再び教育の世界に戻りつつあります。

研究・教育実践領域としては、サウンドスケープ研究、サウンドエデュケーション、音からのメディアリテラシー教育、音のアーカイブ研究などです。音楽教育とメディアリテラシー教育との接点にも大変関心があります。テレビ番組を音から読み解くと様々な発見があると感じています。最近では、非常勤勤務先の大学のゼミで『音のレッドデータブック』（近年、失われた音、消えつつある音等のアーカイブ）の作成なども行っています。

こうした日常の音、環境の音世界に深く分け入っていくほどに、音楽の素晴らしさを実感します。音楽教育は元々の出身母体ですが、長い間離れておりましたので、皆様にご教示いただきながら研究・実践両面で深めて行けたらと思っています。どうぞよろしくご指導のほどお願いたします。

(立教大学・武蔵大学・目白大学・放送大学 非常勤講師／サウンドスケープ論、地域メディア論、音響メディア論、サウンドデザイン、音のメディアリテラシー教育)

## 新会員メッセージ

### 1人1台タブレット活用教育の時代へ

放送大学・辻 靖彦

「2020年」と聞いてどんなことを思い浮かべますか？「東京オリンピック」が浮かんだ方が最も多いかもしれません。その一方で2020年は、「子ども同士が教え合い学び合うなど双方向でわかりやすい授業」の実現のために「児童生徒1人1台の各種情報端末」を活用できる情報環境を実現する目標年として政府機関が定めた年でもあります。現在、そのような政府の方針や先進的な授業を実施したい一部の地方自治体の手によって小・中・高等学校におけるタブレット・PCの導入が急速に進んでいます。大学でも名古屋文理大学やサイバー大学のように新入生全員にタブレット・PCを配布する機関もあります。

私も先月、本務先で初となる1人1台タブレット環境による授業を行いました。タブレット・PCを使うと、生徒同士が自分達の演奏等の映像を録画してすぐに一緒に見直す、録画した映像をその場で教員が生徒と一緒に見ながら画面上にタッチペンで書き込み指導する、お手本と生徒の映像を同時に再生して見比べるなど、従来すぐには出来なかったことが簡単にできるようになります。もちろんタブレット・PCは教育を支えるツールの一つに過ぎず、最も大切なのは教育理念や人と人との関わりであることは今昔変わりません。しかし、そのような理想とする教育を実現するアプローチ方法の「幅」が広がるという意味で、タブレット等のICTを用いた新たな教育手法に目を向けることは有意義なことかもしれません。

#### ※お断り

前号まで執筆者の所属抜きで各原稿を掲載しておりましたが、今回から所属等を明記することになりました。

## ・・・ 会員 掲 示 板 ・・・



会員の林麻由美氏のコンサート情報です。お誘いあわせのうえ是非ご来場ください。

＜プログラム＞

モーツァルト/ピアノソナタ変ロ長調

ブラームス/幻想曲集 Op.116

グリーグ/ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第3番ハ短調 Op.45

ショパン/アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ Op.22

**2016.5.1 14:00 開演**

**東京オペラシティ・リサイタルホール**

全自由席 一般 3000 円 学生 2000 円

掲示板を設置しました。会員関係(関係なくても)演奏会情報や近況報告、耳寄りな話など色々な情報をお寄せください。情報はメールで事務局または [yanak\\_ayu@yahoo.co.jp](mailto:yanak_ayu@yahoo.co.jp) まで。随時受け付けています。

### 第三回研究会のお知らせ

H28年2月28日(日)PM1:00-4:30

葛飾シンフォニーヒルズ4階パンジー

内容 研究発表・報告・フリートーキング等。お誘いあわせの上ご参加ください。プログラム詳細は後日メーリング・リストにてご連絡致します。(現在発表者受付中のため、今しばらくお待ちください)

**まだ間に合う! 発表者受付中!**

申し込み締め切りは 1月31日

学会事務局まで

### 会費について

年会費 7,000 円

入会申込書と会費の入金をもって入会申込み受理となります。

《振込先①》

ゆうちょ銀行 10510-91267401

ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ

《振込先②》

みずほ銀行 亀有支店(店番178)

(普)1293675 日本音楽教育メディア学会会長 谷中優

※入会に際しまして会費についてご質問等ございましたら、事務局までご相談ください。

### 事務局だより

明けましておめでとうございます。年明け早々汗ばむほど暖かかったり、あまりの強風に電車が止まってしまったり。例年ならば、まだ固い沈丁花の蕾が、昨年末には膨らんできていました。でも、先日の冷え込みで、そのまま固まっています。今年の冬は、なかなか落ち着きません。

ニュースレターvol.3をお届けいたします。今回は、今までよりもページ数大幅増で4ページになり、内容も、先生方のご協力により大変充実したものになりました。ご寄稿くださった先生方、ありがとうございました。毎号、少しずつではありますが増えるページ、内容に、うれしい悲鳴を上げております。今年は、1月末に論文の締め切りがあり、来月2月には、第三回研究会がございます。先生方の良き研鑽の場になりますよう勤めてまいります。

本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局 鈴木佑未子・林麻由美・鎌田千佳